

# ダルニー通信

59

2010  
秋号



## タイ元奨学生のお知らせ(P 2、3)

- 10月からマンスリー・サポート・プログラムがスタート(P 5)
- 10月から民際のホームページがリニューアルします(P 8)



一般財団法人  
民際センター

今年5月、タイの事務局（EDF）に元奨学生ユワパーさんから、日本のドナー宛てに以下の手紙が届いたので紹介します。併せて、これまでダルニー通信で紹介した元奨学生たちからの手紙の一部も紹介します。



## 元奨学生からの手紙

私にチャンスを与えてくれて、ありがとうございます。もう一度お礼が言いたかったのです。

ササモリ様



私はユワパー・カセムシンです。ナコンパノム県の中学生時代、1992～1995年までダルニー奨学金を受けていました。田舎の貧しい人の中学生に奨学金を提供していただき、とても感謝しています。勉強するチャンスと自分の故郷を活性化するチャンスももらいました。私は大学の行政学部を修了し、今、地元の地方自治体の職員として働いています。

私の住んでいる地方は家が貧しく、家計を助けるために義務教育を途中で投げ出すか、終了後にすぐ働きに出る子どもも多く、望むレベルの教育を受けることができません。こうした子どもたちは教育面での援助を待っています。私や他の貧しい子どもにチャンスを与えてくださり、もう一度お礼が言いたかったのです。



夢の実現に  
手を差し伸べていただき、  
ありがとうございます!

奨学金のお陰で、  
私の人生は変わりました。  
もし奨学金がなければ...

いつの日か、  
私を支援してくれた方と  
お会いしたいです。

✿ 看護師養成  
専門学校で勉強



『ドナーに会いたい』という夢も実現

パウニヤさんは、中学生時に生れてはじめてもらった、ドナーからの誕生日プレゼントに感激。JICAの看護師研修プログラムをきっかけにドナーに会いました。

✿ 米国MBA留学



15年前のクリスマスカードも今も大切に

中学に行く人は一人もいない村で育ち、お母さんから『小学校を卒業したら、工場で働んだよ』と言われたブーンマスさん。当時、ドナーからもらったクリスマスカードも今も保管しています。

✿ 陸軍の兵士



『感謝の気持ちも心に刻んであります。』

ある日、タイ事務局に若い青年が『ドナーに感謝の手紙を送りたい』と訪ねてきました。その手紙に『もしタイにいらしたら、私の家にいらしてください』と書かれています。

✿ 県の職員



『奨学金がなければ、今日の私はないでしょう。』

貧しくて兄は中学校に通えなかったアドウルはダルニ奨学金で中学に。大学も奨学金ももらって卒業し、県畜産課の職員になりました。

✿ 看護師



『生まれ故郷で役立ちたい。』

妹が小さい時に事故で入院した病院の看護師の働きぶりが印象的だったため、看護師に。故郷で看護師の数が足りないの、困っている人々の役に立ちたいと地元で働いています。

✿ 大学院生



大学卒業時の成績は2番

ペアソンの家族に会いに行ったドナーは、彼女の先生から『この子は成績抜群だから高校も支援してほしい』と頼まれ、さらに大学も支援。彼女はその後、大学院でバイオの研究も継続しました。

奨学金を得て一生懸命勉強し、貧困の連鎖から抜け出した元奨学生たち。ドナーへの感謝を心に刻んでそれぞれそれぞれの道を歩んでいます。 ※肩書は掲載当時

# 公益財団法人化を目指して 2010年度 第1回通常理事会及び評議員会を開催

今年6月18日（金）、2010年度第1回理事会及び評議員会を開催し、以下の2つの議題について報告・承認されました。

1. 2009年度の事業・収支報告について
2. 公益財団法人化について



## 理事長あいさつ

2009年度もご支援ご協力をお寄せくださった皆様に心よりお礼申し上げます。一般財団法人初年度の2009年度は、国内の景気低迷を反映して支援継続及び新規開拓が大変厳しい状況にありましたので、ファンドレイジング（寄付金募集）の強化を最優先に活動しました。今後も事務局一丸となって引き続き精進努力する覚悟ですので、皆様にも一層のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。また、ご支援者の寄付金が優遇措置を受けられるよう、公益財団法人化の申請準備を急ぎます。

## 1. 2009年度事業報告

- ①奨学金事業（タイ 8,284名・ラオス 7,040名・カンボジア 1,288名＝合計16,612名に奨学金支援）
- ②ラオス校舎建設事業（5校建設）
- ③図書事業（ラオス国内の40校に図書セット寄贈）

- ④ブーンライ保健衛生事業（ラオス国内の16校で健康診断を実施）
- ⑤ラオス高校教師修士養成留学事業（5名が新たにタイへ留学し、現在11名が留学中）
- ⑥ラオス少数民族教師養成事業（36名の学生に奨学金支援）
- ⑦星野プロジェクト（ラオス国内の44名の高校教師がワークショップに参加）
- ⑧そろばん事業（ラオス国内の小学校20校でそろばんの教師研修）
- ⑨OSOP事業（タイ21・ラオス8校で1校1事業を支援）
- ⑩研修旅行（ラオス・タイ・カンボジアで実施）
- ⑪国内活動支援事業（全国ドナー連絡会等）
- ⑫調査研究事業（奨学金事業の調査等）

## 2. 公益財団法人化について

一般財団法人は、行政庁による公益性の認定を受け「公益財団法人」になることで、税制上の優遇措置を受けられるようになります。その認定基準は、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与し、公益目的事業比率が50%以上であることや法人関係者に特別の利益を与えないことなど多くの基準を満たさなければなりません。また、認定後は情報公開を徹底し、行政庁の監督を受けることとなります。他方、寄付者に対する寄付優遇があり、寄付金が集まりやすい環境になります。

将来の日本の友人をつくる  
教育支援  
もっとアジアに目を

阿刀田 高 理事



奨学金で学校に行った子どもたちは、将来、日本の良き友人になると思う。21世紀は南北問題が問われる世紀で、私たちはもっとアジアに目を向けるべきだと思う。教育支援事業は短期・長期の視点から、とても意義のある事業で、これまでの方向がさらに右肩上がりになるように事業を進めたい。

子どもの教育支援が  
国の発展につながる  
お手伝いを

小笠原耕司 評議員



寄付を受けた子どもが将来自立し、自立した子どもが集まって国を発展させていく。教育支援はその最初の支援・お手伝いだと思う。今後も様々な事業を世界に発信しつつ、ラオス・カンボジア・タイの発展に寄与したい。

≡ 10月からスタート ≡

本年10月より、民際センター「マンスリー・サポート・プログラム」を開始する予定です。詳細については現状検討中ですが、民際センターの理念に共感いただき、民際センターの活動そのものに応援いただくプログラムです。基本的にはWEBサイトから申し込まし、クレジット決済にて毎月一定額を継続してご寄付いただくものとなります。ご寄付いただいた資金については、「すべての子どもに教育を」という民際センターのビジョンを更に実現させていく上での様々な活動費に活用させていただく予定です。詳細が決まりましたら、改めてご案内させていただきますことになるとは思いますが、その節には皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



立松和平さんがラオスで撮った写真を巡回展示

今年2月に亡くなられた作家の立松和平さんは昨年9月、ご自身が支援する奨学生に会いにラオスの村に2泊し、ピエンチャンも訪れました。ラオス滞在期間中、立松さんは数百枚の写真を撮りました。奨学生の少女と家族、村の子どもたち、ボロボロの学校とそこで学ぶ生徒、職員室の女性の先生たち、ピエンチャンの市場の少女など。民際センターはこれらの写真約20点をパネルにし、8月から巡回写真展を実施しています。その第1弾として、8月9～15日にリーガロイヤルホテル東京のメインロビー奥で開催しました。

● 写真展開催に興味のある方、ご連絡ください。

この後、都内で展示会を巡回し、11月頃より地方に写真を貸し出す予定です。ドナーの方で、ダルニー奨学金の広報活動の一環として写真展示会開催をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

大口寄付のご相談に応じます

どの国、どのような活動に寄付したらよいか考慮中の方、ご相談に応じます。途上国での円の価値は日本の何倍、何十倍にも値します。

担当：経営管理部長、本田まで

協力団体紹介

**全日本たばこ産業労働組合**  
六〇周年ロゴマーク入りオリジナル物品販売活動でタイの中学校に図書を提供

全日本たばこ産業労働組合では、設立六〇周年を記念して「六〇周年ロゴマーク入りオリジナル物品販売活動」に取り組み、その益金で「ダルニー奨学金制度」へのさらなる支援として、民際センターを通じ、全たばこが支援している奨学生の通うパーンパーソンチョークチャイ学校（タイ・ノンブアランプー県）の図書室に本を寄贈しました。同校は、2007年6月に全たばこ若手組合員の研修で訪問した学校です。寄贈本は、参考書、ドキュメンタリー、フィクション、テキスト、雑誌など八六八冊になりました。子どもたちの情操教育に少しでも役立てれば幸いです。



◀ 書棚から本を探す生徒



▶ 書棚に掲げられた額  
タイ語と日本語で  
書は全日本たばこ  
産業労働組合から  
の寄贈」と記され  
ている



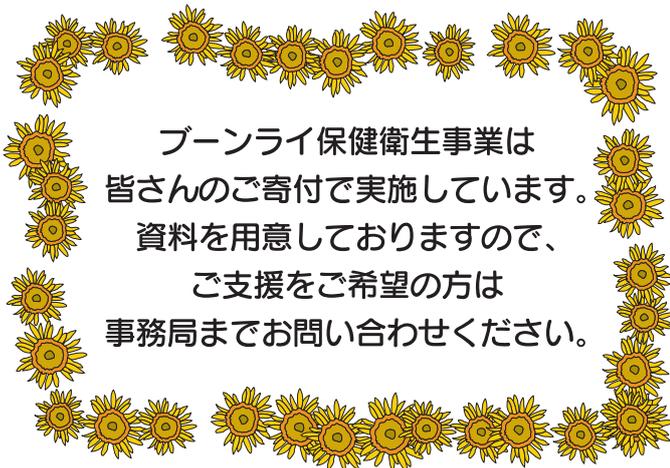
歯磨きの練習をするラオスの生徒たち

## (1) ブーンライ保健衛生(ラオス)

### 4校で歯磨き・手洗いの授業を実施

ラオス農村部では、食事前に手を洗ったり、歯を磨いたりする子どもは少ないのが現状です。例えば、歯ブラシは1本約50円、歯磨き粉(5g)も約50円しますが、多くの子どもはどちらも持っていません。その理由として、親や先生は歯磨きが虫歯を予防することを知らないからです。食事前に手を洗わないのも、手についた菌と感染の関係を知らないからです。

そこで昨年度、ブーンライ保健衛生事業ではカムアン県とセコーン県の各2校で歯磨きと手洗いの意味を教え、その練習を実施しました。今年度は参加しているすべての学校で歯磨きと手洗いの授業を実施する予定です。



ブーンライ保健衛生事業は  
皆様のご寄付で実施しています。  
資料を用意しておりますので、  
ご支援をご希望の方は  
事務局までお問い合わせください。

## プロジェクトの進捗状況

# \* ご支援を お願いします \*

## (2) 奨学金の為替差額事業の紹介:

### タイの1校1事業(OSOP)プロジェクト

#### 将来に役立つ 有機農業や魚の 養殖を学習

地域の資源を活用して農業技術などを学ぶ1校1事業



(OSOP)は2009年度、タイでは15校で実施されました。

その中の1校、ノンカーイ県にあるクッドボン中学校では、生徒たちが落ち葉、干し草、牛の糞にEM(有用微生物群)を混ぜて有機肥料をつくり(写真上)、それを用いて米やほうれん草、レタス、ハーブなどの有機栽培を学んでいます。

さらに、有機肥料の一部を持ちかえり、家の畑にも使用しています(高価な化学肥料を購入する代金を節約でき、生活費や学費に回すことができます)。昨年は洪水などの被害に遭い、学校での収穫量は減りましたが、それでもお米720キロ、野菜合計46キロが給食の食材に供され、それ以外に野菜40キロ、トウモロコシ600本を近隣の人々に販売し、数千パーツの収入を得ました。また、大きな池に4.5×5メートルのいけすを5つ設け、約1,200匹の魚を放ちました(写真)。そして年度末に300キロの魚が取れ、給食に用いたり、市場などで販売したりしました。



魚の売上額は8,250パーツ(約23,000円)で、給食の食材を購入したり、翌年度の事業の資金にしたりしました。

緊急のお願い!

# ラオス人教師修士留学 (TTM) 事業にご支援を!

— 「教育の質」向上の担い手を育成する事業 —

## ラオス人教師 修士留学事業にご支援を!

今年もラオス全土の高校教師からたくさんの方が応募が来ています。2011年度にタイ国立コーケン大学大学院に入学の第1期生への奨学金(授業料・寮費・食費等)の寄付は、年額80万円、修士号取得までの3年間にわたって支援していただきます(総額240万円)。寄付お申込の締切りも延長し、2011年1月14日とさせていただきます。資料のご請求は事務局(担当:横山)まで。

### <教育機会の拡大と同様、教育の質の向上が不可欠>

国の教育水準を向上させるためには、教育機会の拡大が必要ですが、あわせて、教育の「質」の向上も欠かせません。例えば、就学率が上がり学校に通う子どもたちが増えたとしても、教育の質が低いままでは、読み書き・計算などの基礎学力は身についても、もう少し高いレベルの学力はなかなか身につけません。

### <なぜ教育の質の向上が進まないのでしょうか?>

教科書・教材の不足、教師不足などの問題もありますが、ラオスで「質」の向上が図れない背景には、教師の質、カリキュラムの不備、教科書・教師用指導書の不備などの深刻な問題がいつまでも改善されないからです。鍵となる教師の質改善のために、ラオスでもこれまで膨大な労力と費用を掛けて教師訓練が繰り返されてきました。こう

した訓練では、適切なカリキュラムの基で良質の教科書・教師用指導書が使われてこそ成果が出ます。

### <教育の質向上の担い手を>

ラオスの教育の質の向上を図るためには、まずは良質の教科書・教師用指導書を整備すべきとの認識のもと、TTM事業ではそれらの作成を担える教育スペシャリストの育成と蓄積を図っています。有望なラオス人教師を公募により選抜して奨学金を提供し、タイの大学院の教育学部修士号を取得させる事業です。卒業後には全員が「教育指導学会」に所属してラオスの教育の質向上に貢献する、という計画も教育省との間で進行中です。

### <来年度入学の奨学生公募がスタート>

10月から、主に高校の現役教師を対象にした奨学生の公募がラオス全土で開始され、今年もたくさんの方が応募が予想されます。事業趣旨に共鳴し、祖国の教育改善に意欲を燃やす熱心な教師たちからの熱意に、どうかご理解とご支援をお願いします。



本年度入学の新規合格者(最前列3名)のためのオリエンテーションで集合した本事業の奨学生たち(2010年2月ビエンチャンにて)

新しいホームページは10月スタート予定です。  
どんどん進化する民際センターに乞うご期待!

2010年 10月

～ 民際センターのホームページが変わります!～  
【www.minsai.org】



Q. 民際センターのホームページ、  
いったい何がかわるの？

A. はい。お答えします。次の3点に注目してください。

### 1. 新しい支援プラン

クレジットカードによる決済システムを導入します。  
毎月1,000円～ のマンスリーサポーターを募集します!



### 2. 新しいプロジェクト

ラオスの子どもに本を届ける「Lao-Library1000」  
H.I.S.との共同企画スタディツアー等、  
新プロジェクト、新企画が続々始動します!

### 3. 民際センターをもっと知って頂くために

なぜ民際センターが選ばれるのか?  
民際センターの特徴・活動がよりわかりやすくなります!



民際センターの情報は毎月配信されるメルマガで!

民際センターの **twitter**、はじめましたあ～♪

<http://twitter.com/mimsaiorg>





## —— 日本の大学の海外研修プログラム ——

# 国際グループのタイ事務局EDFが日本の大学と連携し、大学のニーズに沿った講座を新設

子ども達と  
交流

### 海外事務局の活動紹介

## 参加大学が増加傾向に

最近、日本の若者の内向き思考が顕著になり、海外留学が減少傾向にあるそうです。これを危惧し、EDFは日本の大学と連携を促進し、日本の次世代の国際協力の担い手の育成を考えました。そして、立命館アジア太平洋大学と連携して、以下の3部構成のプログラムを構築しました。いずれも短期の海外研修です。

- (1) 1年生を対象に1週間の体験学習 (2単位)
- (2) 講座名「国際的なNGO起業家」で、2年生以上を対象に3週間のフィールドスタディ (4単位)
- (3) 夏休みや春休みを利用したインターンシップ (4単位)

EDFのスタッフ35名の約半数は国内外で修士号を取得しているという事もあり、豊富な海外経験がこの事業の拡充に貢献しています。

フィールドスタディは、理論と実践の組み合わせで、実務経験豊富なスタッフによる講座です。実践では、

対象地域の調査 (村泊も含む)、及び他のNGOでの研修等で、インターンシップは学生がテーマを持って財団の活動の一翼を担います。コースの締めくくりとして英語で研究発表をします。

タイ東北地方19県の教育委員会や大学とも連携し、多くの在タイ日本企業にも協力して頂いております。また多様な市民団体の協力により、今後、さらに学生のニーズに沿った、有意義な海外研修プログラムの構築も可能です。

立命館大学とは別のプログラムで、陸路でタイからラオスを訪問した法政大学のゼミ生は初めて国境を越えた経験をし、またある内気な学生は初めて英語で校長先生に感謝の意を述べたことが刺激となり、後に彼らは英国へ留学しました。兵庫大学コンソーシアムもEDFと連携し、海外研修を実施し始めました。

EDFは今後、日本の大学のみならず、世界の大学を対象に研修プログラムを構築していきます。



今、話題の  
寄付方法

## 大丸、松坂屋等のソーシャルネット

大丸百貨店17店舗、松坂屋百貨店7店舗ほか多数のスーパーマーケットを束ねるJ・フロントリテイリング株式会社が「オカイモノ」で社会貢献と銘打って、不要になったブランド品を売ったり買ったりして、指定のNGOやNPOのプロジェクトに寄付をするインターネットサイト「ソーシャルネット」を開設しました。その本格的な稼働に先駆け、7月1日から6ヶ月間のテスト期間の寄付対象プロジェクトの一つに、当センターの「ラオスに学校を！プロジェクト」が選ばれました。この制度は、例えば不要になったブランド品をこのサイトで売った場合、ソーシャルネットが買取金額 (税込) から2.5%を売主の寄付金として預かり、さらに、商品代金 (税込) の2.5%あたる自身の寄付分を加え合計5%を売主の指定先に寄付をする制度です。ご興味のある方は <http://jfr-socialnet.com/socialnet/> をご覧ください。

平均年齢77歳が歌い、演じるコンサート  
 ラオスの子どもたちのために、  
**ヴィンガーズ  
 チャリティーコンサート開催**



**コラム ヴィンガーズが  
メジャーデビュー**

ヴィンガーズは、今話題のモンキーマジックの新曲「FOREVER」のビデオクリップに参加しています。ビデオクリップは多くの子どもや障害者の方々にまじって、ヴィンガーズの面々が共にFOREVERという曲を歌う感動的な映像です。皆さまも、是非一度ご覧ください。

2010年6月5日(土)、東京北区の滝野川会館大ホールにて、ヴィンガーズの第3回チャリティーコンサートが開催されました。今回は「夜霧よ今夜もありがとうーあるいは真智子を待ちながらー」の演目で、300名入る会場は満杯。歌ありお芝居あり、演者・観客一体となったとても楽しい舞台でした。毎回、その収益金をラオスの子どもの奨学金にご支援いただき、今回も総額20万円、ラオスAタイプ6人分、Cタイプ2人分の奨学金となりました。

ヴィンガーズは平均年齢77歳の演劇集団で、演じる皆さま自身がとても楽しみ、生きがいとしてこのチャリティーコンサートを行っています。それが、観客にも伝わり、参加者皆が楽しみながら、ラオスの子どもたちの就学を支援するという、とても素敵な活動となっています。聞くところによると、ヴィンガーズに参加してから、体調が良くなったり、元気になった方が多数いるとか。団員も増えているようで、もしご興味ある方がいれば参加してみてもいかがでしょう。今回は、幕が開く前に、民際センターの職員が舞台にて、お礼のご挨拶をする機会をいただきました。



杉本智孝さんが指導するスギモト・クワイアときさらず・キッズらが中心となり、吉祥寺のゴスペル教室TAKADA・ファミリー・クワイヤーとハワイ・アロハ・アカデミーの友情出演で開かれたチャリティーコンサートが今年も感動

の渦を巻き起こし、約18万円のご寄付をいただきました。これで、今回で8回目を迎える同コンサートの寄付額は合計145万円になりました。

コンサート終盤、杉本氏が舞台上でチャリティーの呼びかけをしました。「(私たちは)タイやラオスの中学生、小学生に学校へ行って勉強してもらいたい。彼らが友達と仲良くし、学校へ行けない子どもたちの事を考えてもらいたい。平和のことも考えてもらいたい。銃で人を殺すことは絶対に学んで欲しくない。だから、民際センターさんにご寄付を托します。では、心を込めて歌います "We are the World"」。そして観客と一緒に「We are the World」の大合唱がはじまりました。

コンサートが終わり、出口で杉本さんのお嬢さんが募金箱を持って、募金を呼び掛けていました。その呼びかけに応じて、小さな子どもたちが笑顔で募金していました。

**2003年からチャリティーコンサート  
 8回のコンサートで奨学金145口を支援!**

**ヤマハ・ゴスペル☆  
 スギモト・クワイア**

**お詫び**

ダルニー通信57、58号でご紹介した株式会社シニアコミュニケーション主催の「東京マダムコレクション」は諸般の事情により中止となりました。参加費の一部をダルニー奨学金に支援いただく方向で進めておりましただけに、開催中止は残念です。本誌をお読みになって楽しみにされた方々には、この場をお借りしてお詫びさせていただきます。



# みんな集まれ

# ダルニー・フェスティバル 2010

これまで地域で開催されてきた全国ドナー連絡会。今年は第10回を記念して、東京で開催いたします。楽しい企画で皆様のお越しをお待ちしておりますのでふるってご参加ください！



日時：2010年11月6日(土) 11:00~14:00

会場：JICA地球ひろば・講堂 (東京メトロ日比谷線「広尾駅」より徒歩1分)

参加費：無料。事前登録が必要です (03-5292-3260または E-mail:info@minsai.org)

内容：阿刀田高さん、浦上節子さんによるトーク・ショー、立松和平さん写真展

交流会：インドシナ料理を楽しみながら、地域連絡会や個人支援者の活動紹介、情報交換など、自由にお楽しみください。(昼食代：1,500円 \*事前登録時に予約承ります)



1935年、東京生れ。  
早稲田大学文学部卒。国立国会図書館に勤務しながら執筆活動を続け、1978年『冷蔵庫より愛をこめて』でデビュー。1979年「来訪者」で日本推理作家協会賞、短編集『ナポレオン狂』で直木賞、1995(平成7)年『新トロイア物語』で吉川英治文学賞を受賞。  
「支援は軽い気持ちでしなやかに、できることをやればよいのでは…」とアドバイスされています。

阿刀田 高さん

\* 社団法人日本ペンクラブ会長  
\* 一般財団法人国際センター理事



4人の子どもを育てる専業主婦だった25年前、ご主人(当時ハウス食品㈱社長)を突然亡くされ人生が一変。「亡き主人の“おかげさま”精神を受け継ぎ、多くの人々に出会い、助けられてこれまで何とかやってきました。好奇心旺盛な私は、これからもいろんな所へ行き、人と出会い、未知の食文化を追及して行きたいと思います。」とのこと。素敵な女性の生き方のお話をうかがえそうです。

浦上 節子さん

\* 財団法人浦上食品・食文化振興財団理事長  
\* 一般財団法人国際センター理事

## 愛知県に新しいドナー連絡会が立ち上がりました

この度、中部ドナー会が発足し、東京事務局よりスタッフの冨田さん、ラオス事務局よりスタッフのジョイさんをお迎えし、「ラオスの現状報告会」を開催しました。多数のドナーの皆様の参加があり、報告や質問等、活発な意見交換が行われました。奨学生やスタッフのことを真剣に語るドナーの方の生の声に触れ、感銘を受けました。

中部ドナー会発足に際し、私が世話人を承ることになりました。今後は中部地区で奨学金の普及など、積極的に活動をしていきたいと思っております。そして、皆様の参加やアイデアをお待ちしております。皆様と共に奨学生の未来を拓けて行けたらと思っております。至らない私ですので、ご指導、ご協力を宜しく願います。

【世話人：田中五十鈴 連絡先：メールアドレス isuzu-t@y4.dion.ne.jp】



ラオスの校舎贈呈式に参加した田中さん(中央)

# 事務局活用 リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の  
お問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、  
下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

## ● 地域で奨学金を広める活動をしたい ●

- ① 書き損じはがき・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めて送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

①～⑤：80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください。折り返し、該当する資料を送付します。②はポスター、⑤は申込用紙も同封します。①、④はメールでもお問い合わせできます。①については、箱に貼るエコ型はがき・テレカ収集箱作成セットも用意しておりますので、ご希望の方は枚数をお知らせください。

## ● 事務局でボランティアをしたい ●

PC入力、DTP・WEB制作の経験者、事務作業など。  
電話で担当、関口までお問い合わせください。

## ● タイの奨学生にプレゼントをしたい ●

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは10月28日（木）です。

## ● 毎年忘れずに送金したい ●

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

## ● タイの奨学生と文通したい ●

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。  
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。  
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## ● 奨学生や現地のビデオを見たい ●

広報ビデオ(13分)やNHKで放映された番組「元奨学生感謝の来日」(20分)など。また、パネルを貸し出すこともできます。(送料実費)

## ● 個人でタイを訪問し、 奨学生に会いたい ●

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月、学校はお休みです）。

## ● 奨学金の説明を聞きたい ●

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

編集後記：3月にカンボジア研修旅行に随行しました。村で宿泊したホストファミリーのご主人は、60歳を超えた、小学校の校長先生でした。とても教養がありそうな、沈着冷静な紳士だったので、夕食後、それとなく彼の経歴を聞くと次の通りでした。彼のお父さんはポルポト以前、ある中央省庁の局長でしたが、ポルポト時代にほとんど家族全員が殺されました。「私の姉妹たちは、とても美しく、素晴らしい女性でしたが、皆、殺されてしまいました」。眉一つ動かさず、訥々とした口調で語り、時々、遠くを見つめる瞬間があります。「人間は何か良いことのために生きなければなりません。自分の子どもにも学校の子どもにも、そのように教えています」。悲惨の底の底まで嘗めつくしながら、心に人間信頼の光を絶やすことなく、子どもの教育にかかわる。その強靱な精神は一体、どこから来るのでしょうか？彼の穏やかな顔が心に焼き付いています。（富）



一般財団法人

民際センター

ダルニー通信 第59号 2010年9月1日発行 発行人：秋尾晃正  
一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル301号  
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510  
Eメール: info@minsai.org ホームページ: <http://www.minsai.org/>  
振替口座：00150-0-57664  
表紙：ラオス カムアン県 撮影 関口 愛樹

— 紙面レイアウト協力 —

吉田シャシヨク 福岡県大牟田市小浜町1-5-17 ☎0944-51-8604